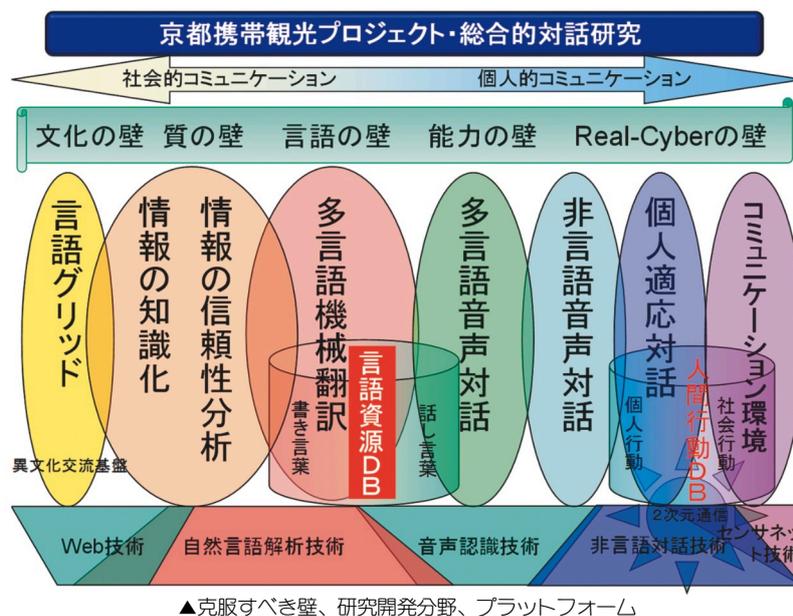


3.5 知識創成コミュニケーション研究センター

研究センター長 若菜弘充

研究センター概要

本センターは、言葉、文化、能力の壁を越えて心が通うコミュニケーション技術の開発を目標に、いつでも、どこでも、だれでも、何でも、どんな方法でも自由にコミュニケーションができる環境を実現するための研究を行う。具体的には、ユビキタス情報通信基盤の上に、言葉や知識、能力などあらゆる差異を超えることができるコミュニケーション環境を構築するために、多言語翻訳、音声及び非音声対話、信頼できる情報の収集、直感的情報提示をはじめとする多様なコミュニケーション技術の開発を実施する。下記に示すような情報ネットワーク社会に存在する様々な壁を克服し、七つの研究開発分野（コミュニケーション環境、個人適応対話、非言語音声対話、多言語音声対話、多言語機械翻訳、情報の信頼性分析・情報の知識化、言語グリッド）で、それぞれの要素技術の研究開発を行い、知識循環型の情報通信プラットフォームを構築する。



主な記事

本年度の主なトピックスを下記にまとめる。

- (1) センター横断的なプロジェクトとして「総合的対話研究」を継続して進めた。この研究は、言葉や知識、能力などあらゆる差異を越えることができるコミュニケーション環境を構築するために、多言語翻訳、テキスト・音声及び非言語対話、信頼できる情報の収集、直感的情報提示をはじめとする多様なコミュニケーション技術の統合化を目指すものである。平成20年度はウェブ上の京都観光情報を対象に、音声対話形式での情報提示システムを構築し、旅行のプランニング対話のためのプロトタイプシステムを開発した。
- (2) センター横断プロジェクト「多言語観光情報プラットフォーム」の研究開発を継続して進めた。テキスト翻訳・音声対話技術やバリアフリー情報に基づく歩行者支援技術をベースとした多言語（日英中韓）観光情報サービスシステムの構築、実証及び社会への展開を目的とする。平成20年度は、PC及び携帯電話に音声再生機能を実装し、観光スポットやSNS書き込み文のリアルタイム音声読み上げが可能となった。平成20年7月平安神宮で実証実験を行った（京都新聞にこの実験に関する記事が掲載された）。
- (3) 北京五輪プロジェクト：これまで研究開発を行ってきた日中音声翻訳及び機械翻訳技術の研究成果をいち早く実用化することを目的として、平成20年8月に北京市で開催されたオリンピック時に北京市内にてモニター実証実験を行うとともに、同時期に運用された多言語観光情報サービスに対して技術協力を行った。
 - ① 日本人旅行者及び北京在住日本人計100名を対象に、移動、観光、ショッピング等におけるコミュニケーション手段として音声翻訳機能を利用しサービス利用満足度等のモニター実験を実施した。
 - ② 北京五輪における「多言語サービス」の正式機関であるCAPINFO（首都信息發展股份有限公司）の多言語サービスシステムに対してテキスト翻訳に関する技術協力を行った。平成20年10月15日北京において「北京五輪での中日情報サービスの成功にはNICTの協力よるところが多である」とする感謝状が授与された。

3 活動状況

(4) 国際会議等への対応

- ① 第2回ユニバーサルコミュニケーション国際シンポジウム（主催：NICT）を平成20年12月15・16日大阪国際会議場にて開催した。243名（海外36名）が参加。
- ② 第2回異文化コラボレーション国際ワークショップ（IWIC）を米国スタンフォード大学で開催した。
- ③ 第8回ケータイ国際フォーラム：平成21年3月11～13日祇園甲部歌舞練場、けいはんなプラザ等で開催した。
- ④ アジア太平洋電気通信標準化機関（ASTAP）及びコンソーシアムA-STAR（Asian Speech Translation Advanced Research consortium）において音声翻訳技術の標準化活動を継続して行った。



▲CAPINFOより感謝状を受領

(5) 研究開発成果の実用化・社会展開のための活動

- ① MASTARプロジェクト：平成20年7月23日学士会館（東京）においてMASTARプロジェクトのキックオフシンポジウムを開催した。多言語音声翻訳、機械翻訳、音声対話等の音声・言語処理を統合的に研究開発し、産学官が連携して、持続的な成果展開を推進するために平成20年4月に発足したプロジェクトで、国内外の言語資源、言語翻訳、音声コミュニケーションの研究者が集った日本を代表する中核研究拠点となることを目指す。平成20年10月15日に産学官連携組織「高度言語情報融合フォーラム」の発起人会を開催し、平成21年3月25日に設立総会を開催した（平成21年3月31日現在で正会員61会員、特別会員60会員）。
- ② ユビキタス特区：総務省による「ユビキタス特区」事業（委託研究）で2件採択された。けいはんな地区では、「電力線通信（PLC）を活用した家電状況モニタリング」（代表：パナソニック株式会社）、「外国人ビジター調査、多言語翻訳を可能とする携帯端末の実証」（代表：財団法人京都産業21）。それぞれには、ユニバーサルシティグループ、MASTARプロジェクト／言語翻訳グループが参加。
- ③ NICTタイ自然言語ラボラリーの活動として、アジア諸国に技術移転することを目的とした言語情報処理のトレーニングコースである第4回Asian Applied Natural Language Processing for Linguistics Diversity and Language Resource Development（ADD）を平成21年2月23～27日タイバンコク開催した。10か国42名参加。
- ④ 言語グリッドプロジェクト：言語基盤グループは、平成19年12月に京都大学を運営組織として言語グリッドを公開した。言語グリッドを用いた国際交流や多文化共生活動を推進中。言語グリッドユーザによる多言語コミュニケーション支援の試みが日経新聞夕刊（平成20年5月19日）の文化面で大きく報道された。
- ⑤ けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会：関西経済連合会、近畿総合通信局、関西文化学術研究都市推進機構とともに事務局としても活動中。けいはんな情報通信オープンラボシンポジウム開催（平成20年11月27日於：大阪梅田ブリーゼプラザ）。ワークショップ開催（平成21年3月6日於：けいはんなプラザ）。人材育成セミナー（平成20年10月30・31日「ユビキタスネットワークの現状と将来動向」於：近畿総合通信局）。

(6) その他

- ① NICTスーパーイベント2008：平成20年9月30日～10月4日幕張メッセにて開催。研究成果の展示を行った。
- ② 11月6～8日ATR/NICTオープンハウス2008（合同研究発表会）来場者数2,210人。講演会聴講者数約220人。
- ③ 11月1～3日NHK大阪「秋のふれあい広場」音声コミュニケーショングループが「音声翻訳システム」を展示。来場者数約64,500人。